

2019 年度 事業報告

(2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで)

1. 食物アレルギーに関する研究開発支援事業

(1) 2018 年度公募型研究助成事業の完了

2018 年度に実施した食物アレルギーに関する予防、診断、治療、対応食品等の研究開発に関する研究助成事業（共同研究 6 件・3,499 万円、個人研究 15 件・2,805 万円、期間：2018 年 4 月～2019 年 3 月）を完了した。研究成果報告書を纏め、当財団 Web 上での掲載及び冊子で公開するとともに、研究成果報告会を開催した。

《研究成果報告会》

開催日：2019 年 10 月 10 日

場 所：AP 品川アネックス(東京都港区)

出席者数：約 80 名

内 容：共同研究助成課題の口頭発表に加えて、今年度より、個人研究課題のポスター発表を新設し、実施した。各々の発表現場では、専門分野が異なる出席者の間で活発な議論が行われた。多くの研究成果からも異分野融合型研究の促進、若手研究者による研究活性化等、事業の意義を確認した。また、研究者間の情報交換・交流を図る上でも有益な成果報告会であった。

(2) 2019 年度公募型研究助成事業の実施

食物アレルギーに関する科学技術の振興・促進を図り、当該分野の医療や食環境の改善に寄与することを目的とした研究助成事業において、2019 年度の助成先として採択された研究課題に対して以下の通り研究助成を実施した。

《助成先等》

助成件数：22 件（共同研究 6 件、個人研究 16 件）

助成総額：6,299 万円（共同研究 3,410 万円、個人研究 2,889 万円）

助 成 先：別表 1に記載

助成期間：2019 年 4 月～2020 年 3 月

特記事項：2020 年度中に研究成果報告書の作成と公開（財団 Web サイトへの掲載、冊子の作成、成果報告会の開催）を行う。

(3) 2020 年度公募型研究助成事業の推進

2020 年度公募型研究助成事業を推進し、公募、審査、助成先の決定を行った。

ア 主要日程

- ・2020年度研究助成募集要項の策定（2019年6月）
研究助成委員会で提言のあった審査方法等に関する改善内容も考慮し策定した。
- ・公募（2019年7月12日～9月30日）
- ・第1回研究助成審査委員会（2019年10月10日）
- ・第2回研究助成審査委員会（2019年12月13日）
- ・助成先の決定（理事会決議：2020年2月1日）
- ・通知（2020年2月）
- ・覚書締結（2020年3月）

イ 助成先等

- ・応募総数：38件（共同研究16件、個人研究22件）
- ・助成件数：23件（共同研究5件、個人研究18件）
- ・助成総額：6,139万円（共同研究2,750万円、個人研究3,389万円）
- ・助成先：別表2に記載
- ・助成期間：2020年4月1日～2021年3月31日

(4) 学会等を通じた学術振興支援及び情報発信

財団の事業に有益な研究や行政動向に関する情報収集とともに、財団のパブリックリレーション活動の一環として、以下の学会や展示会に参加し、講演、展示または広告掲載等を行った。

医学関係：日本小児臨床アレルギー学会、日本アレルギー学会※、日本小児アレルギー学会、食物アレルギー研究会

食品関係：日本栄養・食糧学会、ifiaJAPAN、日本食品化学会、日本調理科学会、日本食品科学工学会、日本食品免疫学会※、日本農芸化学会（コロナウイルスの影響により中止）

栄養士関係：日本栄養改善学会

※は参加のみ

また、日本小児臨床アレルギー学会においては共催シンポジウムを実施した。日本栄養改善学会及び食物アレルギー研究会においては共催セミナーを実施した。

《日本小児臨床アレルギー学会でのセミナー》

実施日：2019年7月28日

会場：和歌山県民文化会館

共催：第36回日本小児臨床アレルギー学会

テーマ：アレルギーの子どもたちへの災害対策（東南海地震に備えて）

演者：奥田 祐亮 先生（和歌山県福祉保健部健康局医務課・和歌山県岩出保健所）

林 奈津子 先生（大阪府済生会中津病院）

成田 雅美 先生（東京都立小児総合医療センター アレルギー科）

参加者：約 100 名

《日本栄養改善学会での共催セミナー》

実施日：2019 年 9 月 7 日

会 場：富山県民会館

共 催：第 66 回日本栄養改善学会

演 者：大矢 幸弘 先生（国立成育医療研究センター）

演 題：食物アレルギーの発症予防

参加者：約 200 名

《食物アレルギー研究会での共催セミナー》

実施日：2020 年 2 月 9 日

会 場：パシフィコ横浜アネックスホール

共 催：第 20 回食物アレルギー研究会

演 者：成田 雅美 先生（東京都立小児総合医療センター）

演 題：『授乳・離乳の支援ガイド（2019 改訂版）』の改定ポイント

参加者：約 400 名

2. 食物アレルギーと向き合う人々の QOL 維持・向上を目指した啓発・支援活動

(1) 「第 5 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」表彰事業の実施

食物アレルギーに向き合う方の健全で豊かな食生活に寄与するために、食物アレルギーに配慮した創作型料理（アレルゲン除去食、代替食）を公募し、専門家で構成する審査委員会で優良作品を選考するコンテスト事業を継続実施した。当事業は、家庭等で工夫された料理技術の伝承、アレルギーに関する意識喚起、教育機会の創出等を目的としている。

昨年度と同様、一般の部と学生の部に分けて募集。対象料理は、主食・主菜・副菜・おやつ・デザート等のジャンルを問わず募集した。

ア 主要日程

- ・2020 年度募集要項の策定（2019 年 6 月）
- ・公募（2019 年 7 月 1 日～9 月 30 日）
- ・第 1 回審査委員会（2019 年 11 月 8 日）
- ・第 2 回審査委員会（2020 年 2 月 2 日）
- ・受賞作品の決定（理事会決議：2020 年 3 月 5 日）

イ 受賞数等

- ・応募総数：604 件
- ・事務局による一次審査通過数：98 件（両部門合計）
- ・審査委員会（書類選考）による二次審査通過数：22 件（両部門合計）
- ・審査委員会（試食審査）による最終審査結果：
 - 最優秀賞 1 件（各部門それぞれ）
 - 優秀賞 1 件（各部門それぞれ）
 - 審査委員特別賞 4 件（各部門それぞれ）
 - 入賞 5 件（各部門それぞれ）

なお、今回は簡単レシピ・独創的なアイデア・卵もどき といった観点で高い評価を受けた作品にはそれらの特徴を表彰状に明記した。

受賞作品名は別表 3 に記載

ウ 受賞作品の情報公開及び表彰状の授与（表彰式は延期）

今年度内（3 月）に、審査委員特別賞以上の受賞者と来賓を迎えて表彰式を開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応するため、来年度に延期することとした。但し、できるだけ早く受賞者の栄誉を称えるため、3 月中に受賞作品の情報（作品名、写真、受賞者名、審査委員コメント）を当財団 Web 上で公開するとともに、受賞者に対して表彰状を授与した。なお、受賞作品のレシピ、調理法（動画）の Web 上での公開、レシピ集の作成などは当初の予定通り来年度に行い、成果物の普及活動に取り組む予定である。

エ 過去の応募料理からの価値ある作品の再発見と公開

過去 3 回の一次通過作品から優れた作品を再発見する計画は完遂に至らなかった。しかし、候補の 15 品内、6 作品については料理を再現し実食評価を終えている。来年度、全ての作品の評価を確定し、情報公開を行う予定である。

(2) 食物アレルギーセミナーの実施

栄養士や食従事者を主な対象として、食物アレルギーに関する診断・治療・栄養指導・事故予防等に関するセミナーを開催した。藤田医科大学ばんだね病院小児科教授の近藤康人先生より「食物アレルギー安全管理と対応法」に関する特別講演を、別府大学食物栄養科学部教授 高松 伸枝先生より「食物アレルギー栄養食事指導のポイント」についてご講演いただいた。最新情報を盛り込んだ講演は極めて好評であった。また、講演後の座談会（質疑応答）は、聴講者が日常現場で抱えている課題に関して、先生とともに解決するという趣旨で実施したが、有意義な会となった。なお、今年度も継続して、（公社）日本栄養士会の「生涯教育認定制度」の運用（受講者の単位取得）を実施した。

《開催地》

長崎会場：2019 年 10 月 6 日、長崎新聞文化ホールアストピア（長崎県長崎市）

新潟会場：2019 年 12 月 8 日、新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ（新潟県新潟市）

2会場での参加者数は約 320 名であった。なお今年度は上記以外に、岡山、東京、福島での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に対処するために延期することとした。

その他、啓発活動の一環として、栄養士会、学会、大学等からの依頼により、栄養士や学生を対象として、食物アレルギーに関する栄養指導を含む基礎知識、当財団活動等について講演を実施した。

(3) 団体活動支援助成の実施

全国の市民、民間団体等が行う食物アレルギーに係る問題解決を目指す諸活動（教育、調査研究、啓発物の作成等）を支援する目的で助成事業を行った。公募制により課題を募集し、理事会にて審査基準に基づき、公益性、実現可能性、社会への波及効果等を評価し、助成の可否決定を行った。なお、助成先の不定期的な計画化に対応するため、今年度も 2 期に分けて実施した。

ア 主要日程

- ・ 公募
第一期：2019 年 4 月 1 日～4 月 30 日
第二期：2019 年 8 月 1 日～9 月 4 日
- ・ 助成先の決定 第一期：2019 年 5 月 23 日、第二期：2019 年 10 月 3 日
- ・ 助成期間
第一期：2019 年 7 月 1 日～10 月 31 日
第二期：2019 年 11 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

イ 助成先

- ・ 助成件数：12 件（第一期・6 件、第二期・6 件）
- ・ 助成総額：582 万円（第一期・286 万円、第二期 296 万円）
- ・ 助成先：別表 4 に記載

3. 地域社会、産業と連携した食物アレルギー対応力向上に向けた取組み

(1) 事業成果物の普及活動の推進

ア 啓発物の普及

2015 年度に制作し全国の小学校、公立図書館に寄贈した「食物アレルギー」を主題にした啓発本「食物アレルギーのひみつ」について、プレゼントキャンペーン（年 4 回）を継続するとともに季節性イベントに合わせた緊急キャンペーンも行った。また小冊子については、学会展示、主催セミナー、各種の講演会等にて配布した。

イ 料理コンテスト事業における入賞作品レシピの普及

コンテスト受賞作品の社会での活用を目的に、レシピを普及する活動を推進した。第 4 回コンテスト受賞作品の料理動画を作成し、当財団の Web サイト上で無料公開を行った。

公開した料理動画は、第1～4回コンテストを合計して80品となった。また、第4回コンテスト受賞作品のレシピ集を作成し、学会展示や各種セミナー等で配布した。

ウ 料理コンテスト事業における入賞作品の市場への普及

入賞作品を応用した製品化や市場導入については進展しなかった。

(2) 行政等のソーシャルセクターとの連携（厚生労働省等）

昨年度末、厚生労働省健康局の支援を得て、各都道府県のアレルギー疾患担当部（局）に啓発本「食物アレルギーのひみつ」を寄贈（約10,000部）し、保健センターを中心に配布する活動を行ったが、複数の部署で実態をフォローし、活用されていることを確認した。

(3) 社会と連携した教育活動の支援、専門知識を有す食従事者養成を目的とする活動の支援

- ・（公社）日本栄養士会が主催する「食物アレルギー管理栄養士・栄養士認定制度」開設のための委員会に財団職員を委員として派遣し、制度の構築を支援。2019年春に制度が発足した。なお、当財団職員は、食物アレルギー栄養士の有資格者となった。
- ・大学からの委嘱を受け、栄養学の講座にて、食物アレルギーに関する基礎知識、栄養指導等の最新情報、エビデントレーニング等の講義を実施。その他食品流通業や給食施設関連の研修会での講演を行い従事者の教育を支援した。

4. 財団の認知度や理解向上のための取り組み

(1) Webサイトによる情報発信

財団の広報、情報公開における有用なツールであるため、コンテンツの充足、刷新に努めた。SNSの強化、タイムリーな情報公開等によりアクセス数は堅調に推移している。

(2) その他の認知度向上のための活動

新聞等の媒体の活用、学会等での展示、各種講演等により財団の認知、知名度の向上を図った。事業の節目で、メッセージ性を判断して、6回のニュースリリースを実施。多数の記事掲載実績を得た。

5. 財団運営

(1) 理事会機能の強化；専門分野の多様性、社会や価値観の変化を受容する柔軟性や進歩性等を重視した意思決定を行うために、理事を6名から9名に増員した。

機関運営を別表5に記載

(2) 運営に万全を期すために、継続して外部ブレイン（監査法人、公益法人協会、助成財団センター等）を活用した。

- (3) 事業成果が社会に与えるインパクトや影響に関する評価とフォローアップを継続実施した。
- (4) 一般からの寄附金募集を 2019 年 2 月末より開始したが、申し込みの実績を得ず、今後、戦略的な施策を講じる予定。

以上

別表 1 2019 年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成 (6 件)】

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	安達 貴弘	東京医科歯科大学難治疾患研究所 准教授	食物アレルギーにおける免疫記憶の機序解明
2	岡田 直貴	大阪大学大学院薬学研究科 教授	重症食物アレルギーに対する経皮免疫療法の実用化に向けた非臨床・臨床 POC データセットの取得
3	佐藤 里絵	農研機構 食品研究部門 上級研究員	ソバアレルギーの特性改変に効果的な手法の探索
4	水野 雅史	神戸大学大学院農学研究科 教授	ヒ素摂取量低減を目的としたフコイダンの血中ガレクチン 9 分泌を促進させる食品成分との食べ合わせによるアレルギー発症予防
5	村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	食物アレルギー診断技術の開発
6	森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科学講座 教授	ω -5 グリアジン欠損食用小麦の開発: ω -5 グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて

【個人研究助成 (16 件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	飯嶋 益巳	東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 准教授	HACCP 導入に向けた抗体精密整列化技術による食物アレルギーの超高感度検出法の開発
2	白井 健二	甲南大学フロンティアサイエンス学部 准教授	工場内におけるアレルギー感作評価が可能なペプチドビーズを用いた簡易検査法の開発
3	大嶋 直樹	独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター	血清 microRNA を用いた好酸球性食道炎の新規バイオマーカーの確立

		消化器内科 医長	
4	大田 昌樹	東北大学大学院工学研究科附属 超臨界溶媒工学研究センター 助教	食物アレルギー対応食品製造のための新しい高圧噴霧技術の開発
5	川本 善之	中部大学 准教授	水溶解メラニンによるアナフィラキシー応答制御と作用機序の解明
6	小島 令嗣	山梨大学大学院 総合研究部医学域 社会医学講座 助教	家塵中の鶏卵抗原と鶏卵アレルギー発症の関連の解明
7	澤 新一郎	九州大学 生体防御医学研究所 システム免疫学統合研究センター 粘膜防御学分野 教授	3 型自然リンパ球を利用した新規食物アレルギー予防法の開発
8	清水 裕	北海道大学大学院 水産科学研究院 技術専門職員	メイラード反応が甲殻類アレルギーの消化・吸収性へ及ぼす影響の解明
9	田中 守	中部大学応用生物学部食品栄養科学科 講師	食物アレルギーに対するカンナデンプンの予防効果
10	津曲 俊太郎	神奈川県立こども医療センター アレルギー科 医長	花粉・食物アレルギー症候群に対するシラカバ花粉免疫療法の有効性と安全性の検証
11	永井 宏幸	岐阜県保健環境研究所 専門研究員	LC-MS/MS を用いた特定原材料のアレルギーおよび品種判別同時分析法に関する研究
12	永倉 顕一	国立病院機構相模原病院 小児科 医師	重症鶏卵アレルギー児に対する経口免疫療法ランダム化比較試験：炒り卵 VS 加熱卵粉末
13	中島 陽一	藤田医科大学医学部小児科学 講師	低アレルギー化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発
14	中野 泰至	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	乳児期のビタミン D 投与によるアレルギー予防に関する研究開発
15	水島 秀成	北海道大学大学院理学研究院 生物科学部門 助教	鶏卵アレルギー除去卵の作出
16	森田 英明	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長	重症消化管アレルギーの病態解明

※50 音順、敬称略、所属等は 2019 年 4 月時点

別表2 2020年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成(5件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	安達 貴弘	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 准教授	食物アレルギーにおける免疫記憶の機序解明 およびその制御法の開発
2	沖嶋 直子	松本大学 人間健康学部健康栄養学科 専任講師	主要アレルゲン Mal d 1 の日本産リンゴ品種 における定量および経口負荷試験結果を基に した食事指導への展開
3	野口 恵美子	筑波大学医学医療系 教授	小麦アレルギーの包括的ゲノム関連解析と T 細胞エピトープの同定
4	橋本 博行	三重短期大学 教授	給食施設での調理時の小麦アレルゲン混入り スクに関する研究
5	松本 健治	国立成育医療研究センター 研究所 免疫アレルギー・ 感染研究部 部長	食物に対する経消化管感作の機序、特に IL-25 の役割の解明

【個人研究助成(18件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	池ノ内 順一	九州大学大学院 理学研究院 教授	消化管上皮細胞のタイトジャンクションの人 為的強化法の開発
2	梅本 英司	静岡県立大学薬学部 免疫微生物学 教授	腸内細菌由来の代謝物による経口免疫寛容誘 導機構の解析
3	岡田 祐樹	昭和大学医学部 小児科学講座 講師	小麦アレルギー経口免疫療法における維持期 の摂取回数と耐性獲得との関係
4	荻田 佑	信州大学先鋭領域融合研究 群バイオメディカル研究所 助教	腸細菌 Flavonifractor plautii によるアレル ギー予防メカニズムの解明
5	河原 隆浩	広島大学大学院医科系科学 研究科免疫学 大学院生	経皮感作食物アレルギーモデル確立と脂肪酸 摂取によるアレルギー制御
6	小谷 仁司	島根大学医学部医学科 免疫学講座 講師	制御性 T 細胞の分化制御に関わる核内受容体 に作用する食品由来成分の探索と有効性解析
7	佐藤 賢哉	公益財団法人実験動物中央 研究所 マーモセット医学 生物学研究部 研究員	コモンマーモセットを用いた食物アレルギー モデルの確立と前臨床評価系への応用

8	清水 裕	北海道大学大学院 水産科学 学研究院 技術専門職員	メイラード反応が魚肉アレルギーの消化・吸収性に及ぼす影響の解明
9	杉浦 至郎	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 医長	複数の重症食物アレルギーを有する児に対する同時緩徐微量経口免疫療法 Simultaneously slow low dose oral immunotherapy: SSLOIT (wSLOIT)
10	中野 泰至	千葉大学医学部附属病院小児科 助教	乳児期のビタミン D 投与によるアレルギー予防に関する研究開発
11	野村 孝泰	名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学 病院 助教	胃食道逆流に注目した牛乳アレルギーモデルマウスの免疫機序の解明
12	濱野 翔	杏林大学医学部付属病院小児科学教室 助教	Food protein induced enterocolitis syndrome の診断における血清 TARC 値の有用性に関する研究
13	春里 暁人	京都府立医科大学 消化器内科学 助教	食物アレルギー予防を目指した食品成分による腸内環境制御法の開発
14	牧田 英士	自治医科大学附属さいたま医療センター小児科 助教	少量経口負荷試験による食物アレルギー児の保護者の不安軽減効果の検討
15	松本 健次郎	京都薬科大学 准教授	温度感受性 TRPV4 チャンネル制御による食物アレルギー予防方法の検討
16	森田 英明	国立成育医療研究センター 研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長	重症消化管アレルギーの病態解明
17	森 雄司	藤田医科大学ばんだね病院小児科 助教	重症果物アレルギーの感作機序に関する研究
18	山下 弘高	琉球大学大学院医学研究科薬理学講座 准教授	食物アレルギーにおける経皮感作と経口免疫寛容のバランスの解明

※50 音順、敬称略、所属等は 2020 年 4 月時点

別表 3 第 5 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品一覧

【一般の部(11 件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/ グループ名	都道府県
最優秀賞	チョイスできるチュロス、豆乳ヨーグルトのディップ添え	天野 みどり	愛媛県
優秀賞	とろ〜り ハム包みクリームコロッケ	行橋市防災食育センター 食物アレルギー対応係	福岡県

審査委員特別賞 (アイデア)	すきっとさっぱり遠州ムース	池原 綾子	静岡県
審査委員特別賞 (簡単)	令和(輪)初!タピオカもちもちドーナツ	西 雅代	岐阜県
審査委員特別賞	腐乳チーズの不乳バジルリゾット	LISA	東京都
審査委員特別賞 (卵もどき)	市販だしに頼らず!憧れの夢はじける本格かに玉	アレルギーを考える会 平松班	北海道
入賞	アレル子のレアレアチーズケーキ	KARIN ♪	埼玉県
入賞	レンチン 5 分 or オープン 40 分焼き フルーツケーキ	佐藤 快枝	千葉県
入賞	ノンアレルギー・グルテンフリー・ ギルトフリー・低糖質を実現! シグナルクラッカー&スナック (*)	アレルギーを考える会 香高班	北海道
入賞	みんな TSUNA がってうちナ〜ゲット	山川 あゆみ	沖縄県
入賞	まるで!玉子サンド	青木 勝利/ 大阪医科大学附属病院 栄養部栄養課	大阪府

【学生の部(11件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/ グループ名	学校名	都道府 県
最優秀賞	今日は豆腐でい!万能タレ につけていただくとろっ とチヂミ	管理栄養士の卵ちゃ ん/ 田村 千草 福原 理沙	山梨学院大学	山梨県
優秀賞 (簡単)	みんなで作ったべよ うチョコっとクロワッサ ン	原田 花音		千葉県
審査委員特別賞	モチッとじゃがたこ焼き 〜ちゃんちゃん焼き風ソ ース	アレルギーを考える 会 梶3姉妹		北海道
審査委員特別賞	モチモチ!タピオカパスタ	木村 綾花 小林 莉央 山崎 帆乃華	鎌倉女子大学 家政学部 管理 栄養学科 給食・栄養管理 ゼミナール	神奈川 県

審査委員特別賞	と～にゆ～もっち～ふお んでゆ	西本 大晟	熊本県慶誠高等 学校	熊本県
審査委員特別賞 (アイデア)	ゆばのフロランタン	木村 かえで	仙台白百合女子 大学	宮城県
入賞	和風スフレプリン	中濱 未来	兵庫県立社高等 学校	兵庫県
入賞	バスク風チーズケーキ	Cherry Flowers/ 小山 凜華 森井 朱桜	北海道文教大学 明清高等学校	北海道
入賞	柚子香るさわやかアーモ ンドブリュレ	衛藤 愛奈	福岡県立久留米 筑水高等学校	福岡県
入賞	パーフェクト親子丼	西 彩那	福岡県立久留米 筑水高等学校	福岡県
入賞	スポーツ選手に!!大人の卵 かけご飯!?	帝塚山大学木村ゼミ の上野琴美		京都府

※敬称略

別表4 2019年度 団体活動支援助成課題一覧

【第一期 (6件)】

	企画活動名	団体名	代表者名
1	アレルギー防災ハンドブック プロジェクト	LFA 食物アレルギーと共に生 きる会	大森 真友子
2	親子・専門職に向けた「保健指導」の試みと 学校等の研修授業	特定非営利活動法人アレルギー を考える母の会	園部 まり子
3	食物アレルギー情報共有企画	大阪狭山食物アレルギー・ア トピーサークル「Smile・ Smile」	田野 成美
4	食物アレルギーの知識習得の場「子どもアレ ルギー教室」の開催、食物アレルギー周知の 為の「食物アレルギーバンド」の作製	すぎなみ食物アレルギーの会	佐藤 香理
5	第3回食物アレルギーのしゃべり場 (オンライン)	特定非営利活動法人千葉アレ ルギーネットワーク	下条 直樹
6	第4回ふくおか食物アレルギー攻略法講座 (講演会) —災害時に生き抜く方法お教えします—	福岡食物アレルギーネットワ ーク	安部 泰佑

【第二期（6件）】

	企画活動名	団体名	代表者名
1	絵本「ともくんのほいくえん」贈呈プロジェクト ニッポンハム食の未来財団助成金	食アレスマイルネット	栗田 洋子
2	LFA アレルギー防災ハンドブック講演会	おまえざきアレルギーっ子の会	澤入 幸代
3	学校・保育所の研修事業と親子・専門職に向けた「保健指導」の試み	特定非営利活動法人アレルギーを考える母の会	園部 まり子
4	食物アレルギーしゃべり場まとめ集作成	特定非営利活動法人千葉アレルギーネットワーク	下条 直樹
5	地域子育て支援拠点事業つどいの広場職員対象「こどもがまんなか食物アレルギーサポートブック」作成・普及事業	認定特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都	空閑 浩人
6	みんなで食べてみんなで学ぼう！管理栄養士さんが教える食物アレルギーっ子の食育	アレルギー対応子ども食堂スマイルシード	笹畑 美佐子

※企画活動名の50音順、敬称略

別表5 2019年度 機関運営

	日付	会議名	主な議題
1	5月23日	第1回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度計算書類・事業報告の承認 ・定時評議員会の招集の決定 ・審査委員会委員の選任 ・2019年度第一期団体活動支援助成 助成先の決定 ・内部規程制定の件 ・役員等の定年制の導入について
2	6月20日	定時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度計算書類、事業報告の承認 ・役員を選任 ・評議員を選任 ・定款の変更 ・2019年度事業計画及び収支予算書等の報告
3	10月3日	第2回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度第二期団体活動支援助成 助成先の決定 ・評議員会招集の件 ・代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 ・2019年度事業進捗状況の報告

4	11月8日	第2回評議員会（決議の省略による）	・定款変更決議（公告の方法の変更）
5	2月1日	第3回理事会（決議の省略による）	・2020年度公募型研究助成事業における採択候補課題の決定
6	3月5日	第4回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度事業計画について ・2020年度収支予算について ・第5回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品の決定 ・代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 ・研究助成審査委員会からの答申内容について

※元号は招集通知で使用した表記を使用

付属明細書に記載する事項無し

以上